

活動10年 感謝と御礼の絵画展

三陸の風景遺産を鑑賞

ブック・エンド・ドリーム・プロジェクト

彩画堂で
23日まで

被災した子どもたちへ図書支援などを行っているブック・エンド・ドリーム・プロジェクト（紺野衆代表）による「東日本大震災復興支援『活動10年 感謝と御礼の絵画展』」が、彩画堂SPACE（盛岡市材木町4の30）で開かれている。小山卓也・作品ノート」（税込み5000円、A5判、68頁）の表紙絵の原画15点を展示。もう見ることはできない三陸の風景を鑑賞できる。23日まで。

同団体は、小山卓也顧問（85）が大槌高校で教員をしていたころに描いた風景を表紙絵にした作品ノートを販売し、その収益を支援額に充て活動している。収益金は図書カードにし、沿岸の学校に贈っている。和紙を使用した作品ノートは、2013年に製作。12種類あり、小山顧問による手書きの野線に加え、裏表紙にはエッセーが添えられている。3 白壁芸術祭・東京で表紙絵になった作品の原画を出品した際に、会場で特別頒布し、被災地復興支援を呼び掛けた。翌年、岩手で

も頒布した後、第1回目の支援として大槌町立大槌小と大槌中に図書カード25万円分（小学校15万円、中学校10万円）を贈った。その後も、作品ノートなどの作製や頒布をし、支援を続けてきた。同展は今年、活動が10年を過ぎ、いままで受けてきた感謝の気持ちを込めて開催した。11月に釜石市大町の市民ホールTETTOで行われ、今回で2回目。同団体事務局の三浦満春さん（63）は「ノートなどを売ってもらい、その収益金から図書カードにし、沿岸の学校に渡していた。せっかくなので、原画を沿岸の人にも見てもらいたいという思いがあった。盛岡でも支援してもらった感謝の気持ちを込めて、2回やっている」と笑みを浮かべる。



ブック・エンド・ドリーム・プロジェクトの小山顧問（左）と三浦さん

作品ノートの原画15点

主に1990年代前半に油彩や水彩、パステルなどで描かれた海や山などの風景画が並ぶ。「大槌湾の夕映え」（油彩）では、夕暮れ時の静かな湾岸が描かれている。三陸リアス海淵（油彩）は、鮮やかなターコイズブルーの海の上に、小舟が一艘たゆたっている。小山顧問は「もう二度と見ることができな

い海の風景遺産。訪ねれば分かるが、高い防壁が海岸線を占めている。海も下からかき回された。ターコイズブルーは特に、白い砂浜が下になくああいっしょが出てこない。それが全部壊されて、いまは無彩色の海になってしまった」と思いを語る。同展では、作品ノートやその裏表紙に添えられたエッセーなどをまとめた「庭の音」（税込み1760円、A5判、268頁）などの販売もしている。売上げの一部は、支援活動に充てられる。午前11時から午後5時（最終日は同4時）まで。入場無料。